

大規模事業評価の流れ

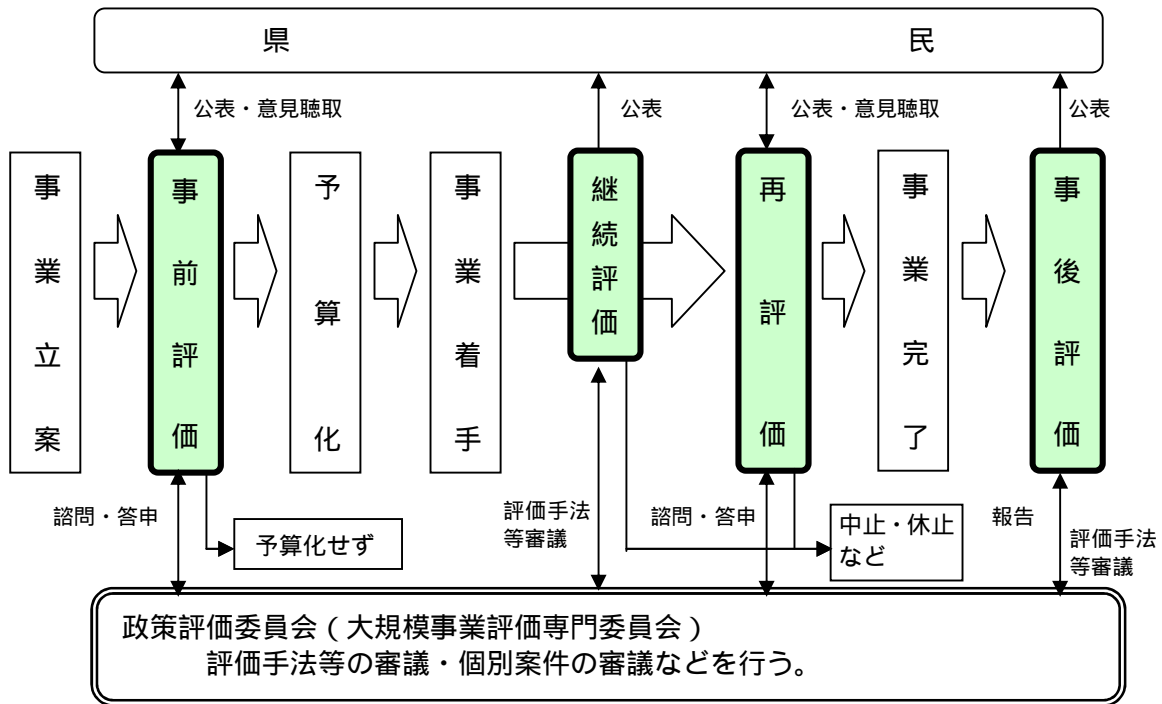
【大規模事業評価の対象】

- 大規模公共事業 公共事業のうち、50億円以上の事業
 大規模施設整備事業 ・25億円以上の事業
 ・これに準ずる事業で知事が必要と認めるもの

公共事業とは、道路事業、河川事業、砂防事業、海岸事業、港湾事業、空港事業、都市計画事業、下水道事業、公営住宅建設事業、農業農村整備事業、林道事業、治山事業、水産基盤整備事業をいう。

【大規模事業評価の時期と内容】

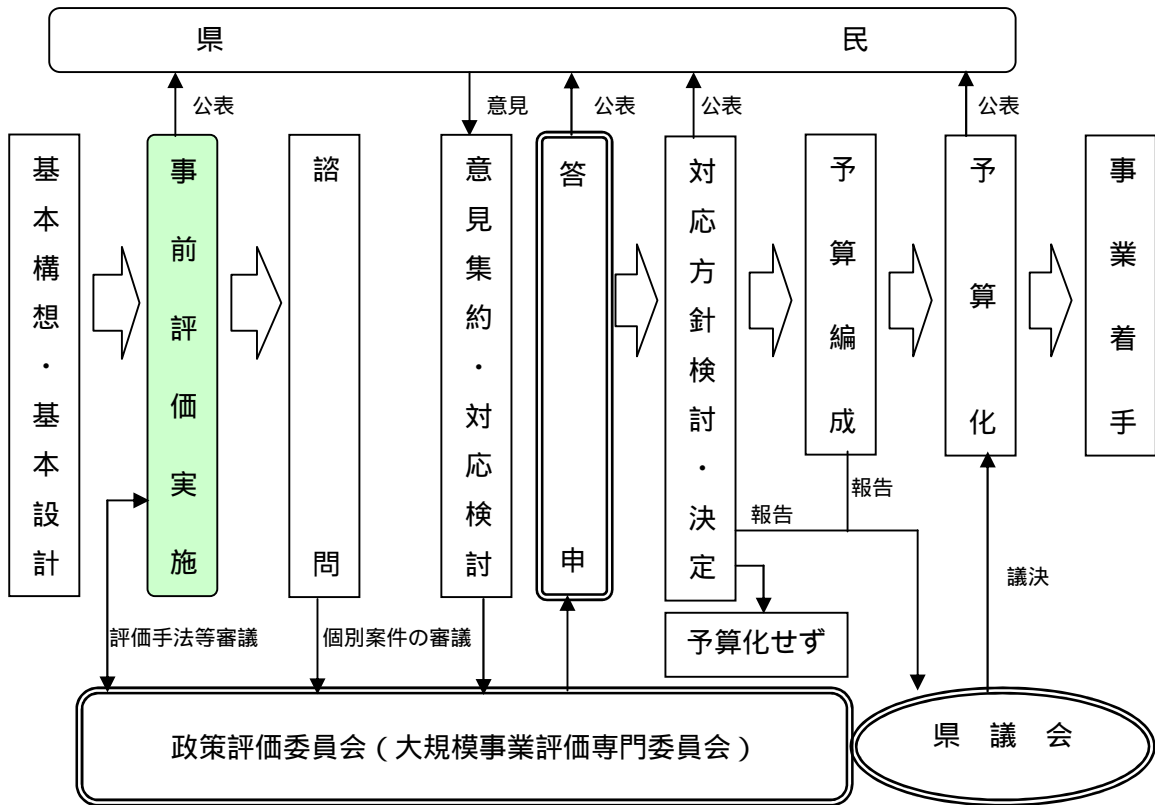
(フロー図)



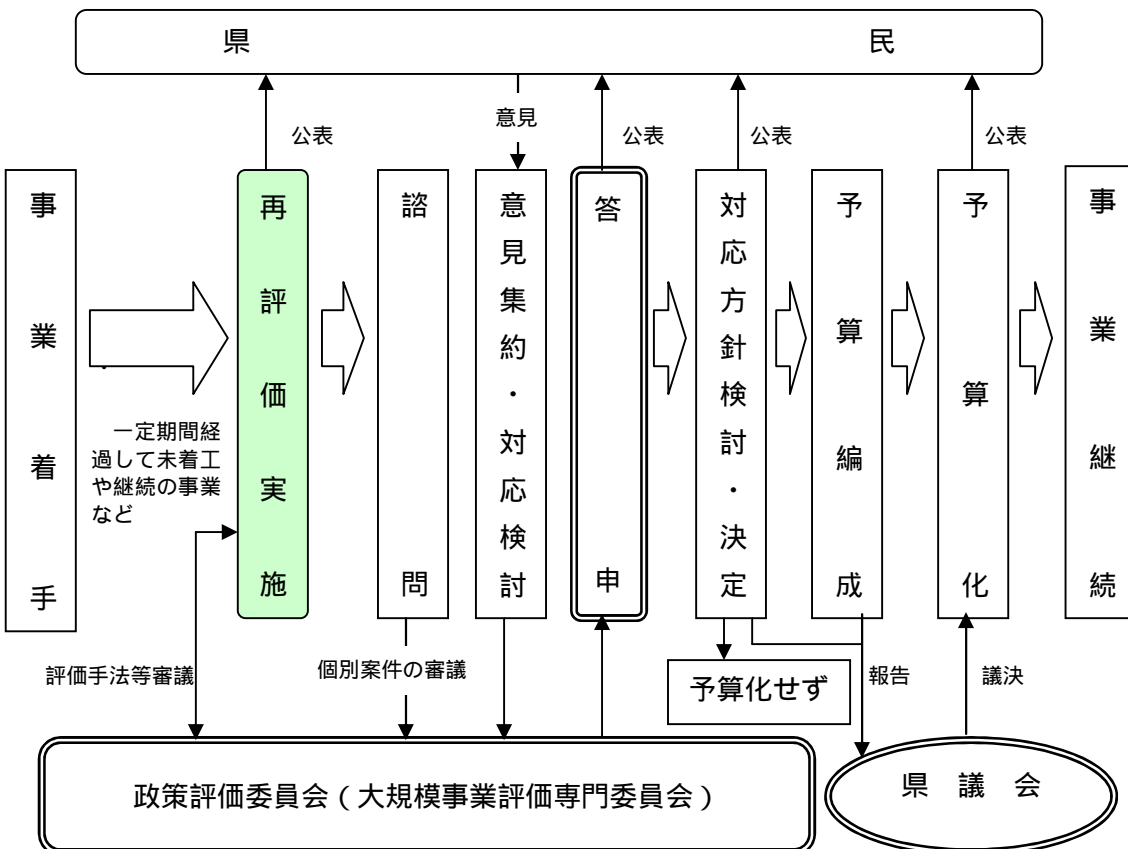
(評価の時期と内容)

- 事前評価** 原則として、基本となる構想を作成した時及び基本となる設計をした時にそれぞれ評価を実施する。
- 継続評価** 毎年度評価を実施する。(大規模公共事業のみ)
- 再評価** 次の時期に評価を実施する。(大規模公共事業のみ)
- ・事業着手から5年度内に未着工の事業
 - ・事業着手から10年度内に事業が完了する見込みがない事業
 - ・再評価の翌年度から5年度内に事業が完了する見込みがない事業
 - ・地域高規格道路又はダム建設事業の事業で、事業の準備又は調査に着手してから5年度内に事業に着手する見込みがない事業
 - ・社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等で再評価を行う必要がある事業
- 事後評価** 次の時期に評価を実施する。
- (大規模公共事業)
- ・道路事業については、事業完了後概ね3年を経過した事業
 - ・水産基盤整備事業については、事業完了後概ね6年を経過した事業
 - ・その他の事業については、事業完了後概ね5年を経過した事業
- (大規模施設整備事業)
- ・事業完了後概ね5年経過した事業

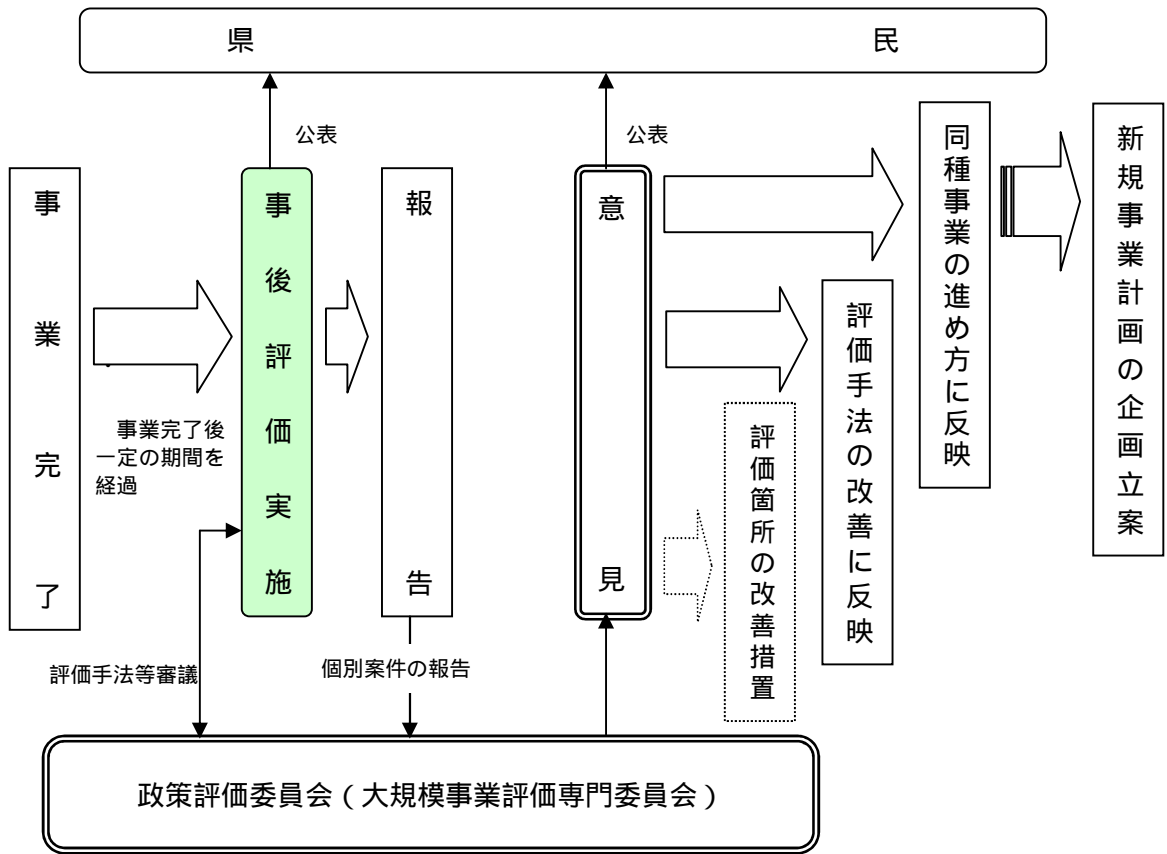
事前評価（大規模公共事業、大規模施設整備事業）



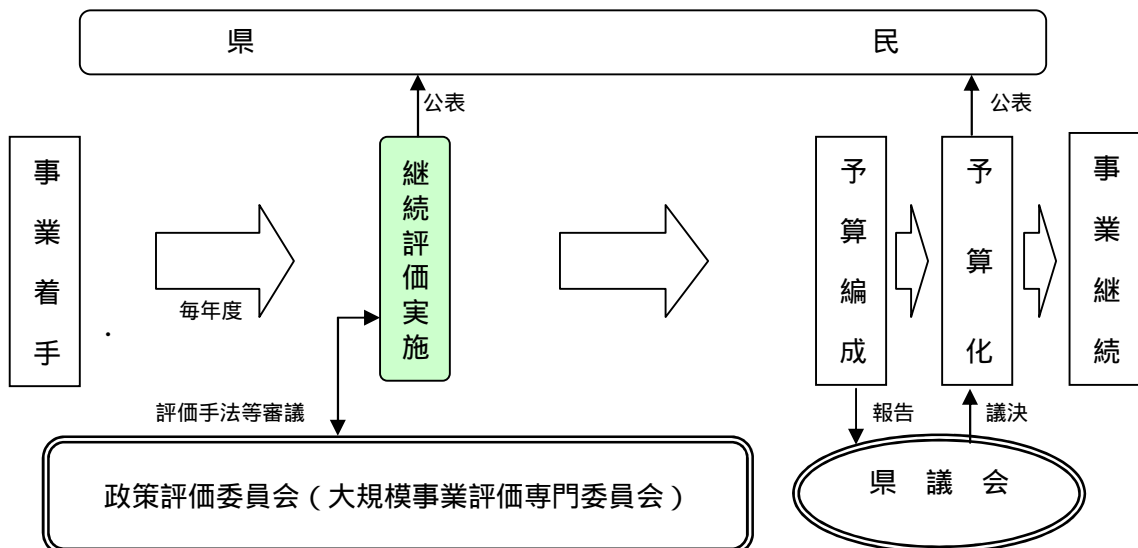
再評価（大規模公共事業）



事後評価（大規模公共事業、大規模施設整備事業）



継続評価（大規模公共事業）

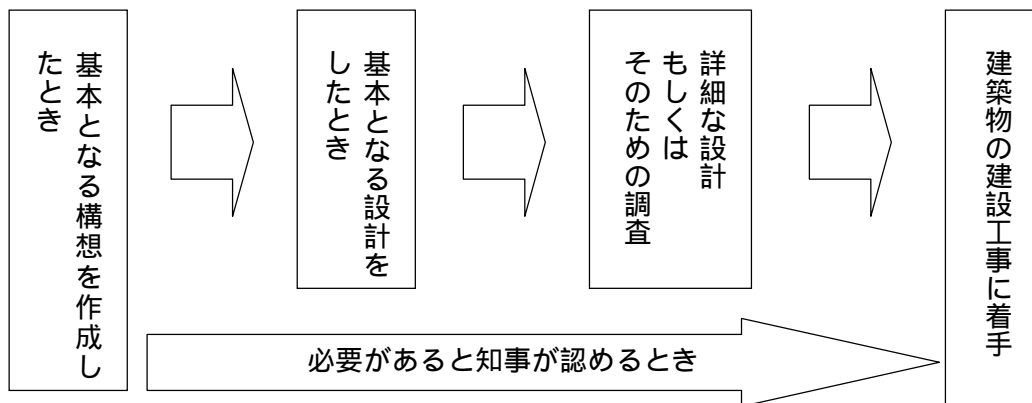


大規模事業の評価の時期と評価項目

事前評価（大規模公共事業・大規模施設整備事業）

事前評価は次表のとおり段階を踏んで評価することとしている。

評 価 の 時 期	評 価 項 目
基本となる構想を作成したとき	・事業の必要性等の検証
基本となる設計をしたとき	・事業の規模や費用、効率性等の検証
に掲げる時期後、事業の詳細な設計若しくはそのための調査をするまで又は建築物の建築工事に着手するまでの間で、社会経済情勢の急激な変化等特別な事情により事前評価を実施する必要があると知事が認めるとき	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価実施時期により以下の項目とする ・事業の必要性等の検証 ・事業の規模や費用、効率性等の検証 </div>

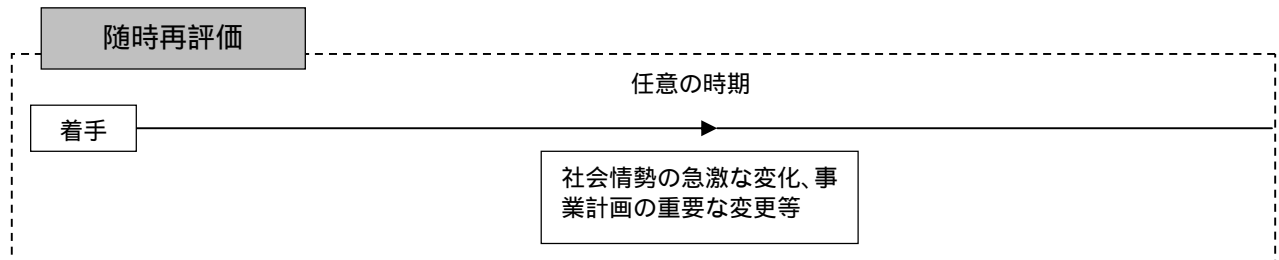
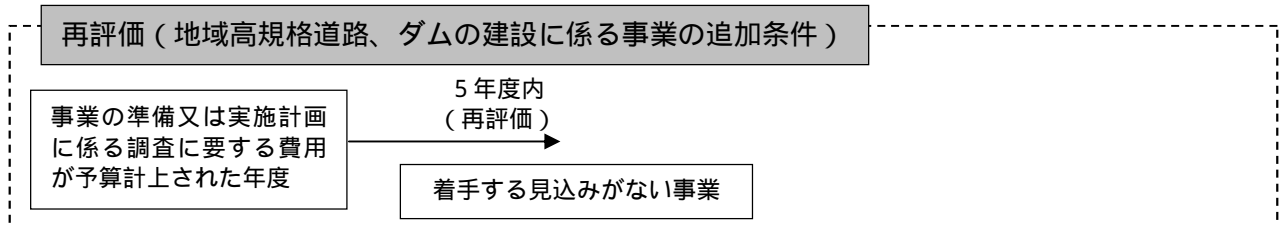
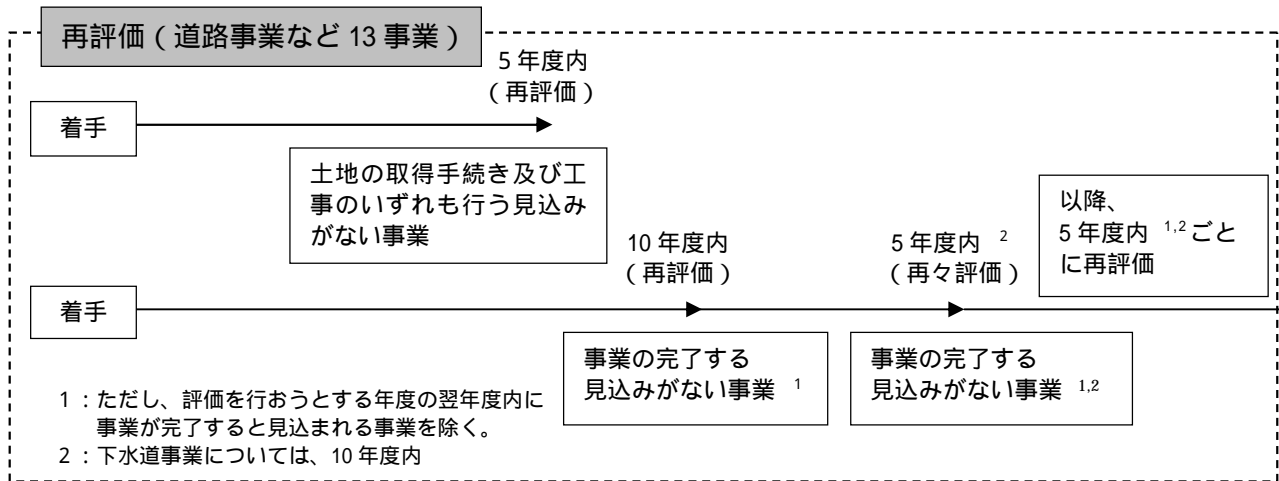


継続評価（大規模公共事業）

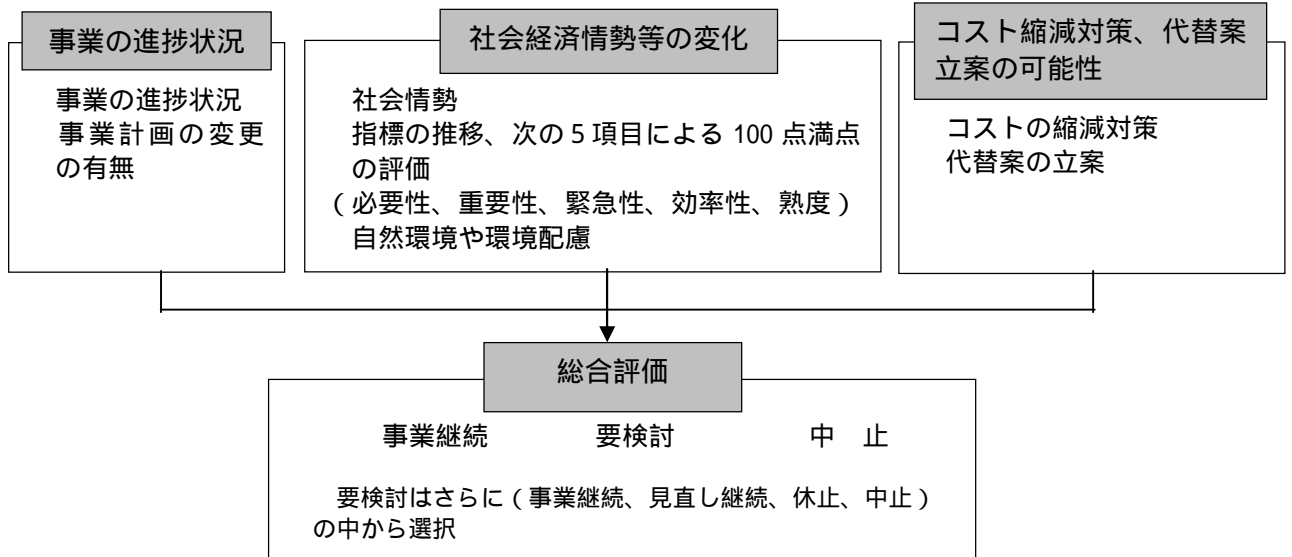
評 価 の 時 期	評 価 項 目
・毎年度（11月）（再評価事業を除く）	・自然環境等の状況に係る評価 ・事業に関する指標からみた評価（100点満点） 〔必要性、重要性、緊急性、効率性、熟度〕

再評価（大規模公共事業）

1 実施時期



2 評価項目



事後評価（大規模公共事業・大規模施設整備事業）

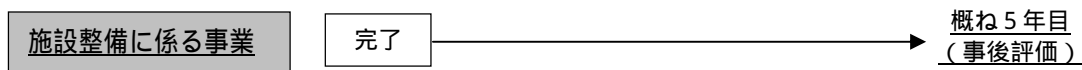
事後評価の実施時期と評価項目は次のとおりとしている。

1 実施時期

大規模公共事業



大規模施設整備事業



2 評価項目

